

会議議事録

委員会	2019年度 学校関係者評価委員会
学校名	東洋きもの専門学校
会議名	第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和2年 1月22日(水) 17:30~19:00
場所	東洋きもの専門学校 第3校舎 イベントホール
出席者	<p>◇委員長 ・小寺 克一 (東洋きもの専門学校 校長)</p> <p>◇委員 ・大東 正之 (大阪市立鶴見商業高等学校 校長) ・吉村 隆介 (株式会社吉村商店 代表取締役社長) ・藤岡 将 (アトリエシルク千林店 ジェネラルマネージャー) ・近藤 規代 (東洋学園高等専修学校 教頭)</p> <p>事務担当 説明者 ・伊藤 (東洋きもの専門学校 教頭)</p> <p>司会 ・中永 (東洋きもの専門学校 教務部長)</p> <p>書記 ・田中 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p>記録 ・角倉 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p>・中川・松本 (東洋きもの専門学校 教員)</p> <p style="text-align: right;">合計 11名出席</p>

議案	<p>協議Ⅰ</p> <p>①学校概要について ・今年度の本校の取り組みについて ・学生の修学状況について</p> <p>②自己評価の重点目標について ・教育理念・目的・人材育成像 ・学修成果・学生支援</p> <p>③意見交換</p> <p>協議Ⅱ</p> <p>①令和元年度学校教育自己診断アンケート ・調査結果について ・調査結果・分析、まとめについて</p> <p>②意見交換</p>
----	--

内容

- ・学校長挨拶
- ・委員・職員(自己紹介)

協議 I

①学校概要について

◇今年度の本校の取り組みについて

小寺校長より

- ・教育環境の充実を図るため4月より校舎の移転を決定
- ・高等教育修学支援新制度の認可
- ・学外授業において学んだ知識や技術を発揮することにより得た評価は、学生にとって大きな自信となり学習意欲の向上につながった。
- 今後引き続きこのような場を与えていきたいと考えている。

◇学生の修学状況について

- ・卒業予定者13名 就職希望者13名 (内)内定12名 全員きもの業界
- ・面談を何度も重ね一人ひとりに合わせたサポートを行う
- ・近年、大学を卒業しての入学者が増えている。高校卒業、大学卒業者また、社会人経験者など多様な学生が入学・・・個々に合わせた指導を教員全員でサポートできるよう、情報共有を常に心掛けている。

②自己評価の重点目標について

◇教育理念・目的・人材育成像

- ・3つの校訓を念頭におき、業界で活躍できるための人材育成を目標としている。
- ・企業とのコンタクトを密にし、社会・業界・職種のニーズに合わせたカリキュラムで人材育成を行っていけるよう常に授業内容を検討していく。
- ・授業外で培った感性もプラスし、舞台衣装を手掛ける会社や伝統を重んじる縫製関係デザインやコーディネートを生かせる企業への就職に繋げている。

◇学修成果・学生支援

- ・修得したものが認められることにより、やりがい生まれ、技術の向上につながる。このような機会をより多く作っていききたい。また、それが就職へとつながっていくよう教員全員でサポートしていきたい。

③意見交換

〔藤岡〕 学校の認知又学校選びは学生か？親か？

〔A〕 高校への広報活動(パンフレット配布・訪問)を行っている。他ネット検索や口コミ。

〔藤岡〕 きものが好きで？ きものに興味があつて？

〔A〕 きものが好きでオープンキャンパスに参加の人、きものに限らず和に興味のある人も参加。オープンキャンパスに参加して、興味を持ち、深く知りたい、学びたいという人が多い。将来的には、きもの業界に就職をするために、入学をしてくる。

〔大東〕 多様な学生(モチベーションの違いがある)の指導について。

〔A〕 少人数、担任制なので一人一人に合わせた指導・フォローをできる。

〔大東〕 課外授業での学生の反応は？

〔A〕 学生の意識は高くなり、自信もつきモチベーションがアップする。
職業選びのきっかけとなる。

〔吉村〕 意匠白生地 の図案作成において、コラボ授業を行っている。若い人の感性や発想は新しいものをつくる感覚が企業側としても勉強になる。(学生たちは業界の宝である)

〔A〕 本校では1年生で基礎全般を学び、2年次よりコース別で授業をしている。
縫製ばかりではなく、デザイン・ヘアメイク・着付けが出来る学生が欲しいという企業の要望に応えるかたちで「意匠デザインコース」「コーディネーターコース」をつくってきた。

〔藤岡〕 きもの業界の就職先の数はあるのか？

〔A〕 きものに関する基礎知識があるため、即戦力として働けるので雇ってもらいやすい。
きもの学校は、全国に僅かしかない。売り手市場である。

〔藤岡〕 就職したのちの感想(卒業生の)

〔A〕 本人が条件等を納得したうえで、就職をきめさせている。転職する者もいる。
就職先の会社では高齢が進んでいるため、若い人を育てる動きがみられる。

<p>内容</p>	<p>協議Ⅱ</p> <p>①令和元年度学校教育自己診断アンケート</p> <p>◇調査結果について ※別紙参照(学生43名を対象としたアンケート結果を配布、説明)</p> <p>◇調査結果・分析、まとめについて (学生の相談窓口) ・新年度オリエンテーションなどでも説明はしているが、今後はもっと窓口の明瞭な説明と対応を行っていけるようにしたい。 (就職・進路の説明・指導) ・早い段階より就職についての指導は行っているが、学生全員がより理解を深める指導ができるよう、個々のガイダンスの時間を増やし、満足のいくサポートをしていくよう検討課題としたい。 (施設・設備) ・環境・施設の充実を図るため4月より校舎の移転をする。 (授業) ・学生によって理解や修得の違いがある。個人に合わせ放課後や夏休みなどに授業外の指導はしているが、教員一人ひとりが、それぞれの学生の状況を把握してし指導に努めていきたい。</p> <p>②意見交換</p> <p>〔近藤〕 アンケートは学年によって感じ方や取り方が違う。学年別に集計したり、グラフ化することによりわかりやすく分析しやすいと思う。</p> <p>〔大東〕 アンケートをとる時期についても学生のモチベーションや捉え方がちがうので、アンケート結果が違ってくる。結果をあまり気にすることはない。本校では時期をずらし2回取っている。</p> <p>〔吉村〕 教育環境改善のため、校舎移転に付、施設・設備が充実されるが、中には就職した先とのギャップが多少生まれるかも知れない。</p> <p>〔藤岡〕 学生をみていると、先生との良いコミュニケーションが見受けられる。アンケートの25(本校に入学して良かった)に全てが表れていると思う。</p>
-----------	---